

氏 名：有 家 香
学 位 の 種 類：博士（看護学）
報 告 番 号：甲第115号
学 位 記 番 号：博第112号
学位授与年月日：令和5年3月15日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論 文 題 目：2年目看護師のチームにおける看護実践の様相
Nursing Practice from Second Year Nurses' Perspective on Team Practice
論 文 審 査 員：主査 小 宮 敬 子
副査 吉 田 みつ子（正研究指導教員）
副査 井 村 真 澄（副研究指導教員）
副査 守 田 美奈子
副査 本 庄 恵 子

論文審査の結果の要旨

審査の概要

医療技術の進歩、患者の高齢化・重症化、在院日数の短縮化が加速するに伴い、看護職者に求められる役割はますます複雑で多岐にわたる。これらに対応できる高い実践能力を備えた看護職者の育成は大きな課題であり、2010年には新入職看護職員研修が努力義務化され、新人看護師の教育プログラムの整備、指導者の育成が進められてきた。しかし、新人看護師が複数の患者を同時に受け持ち、チームメンバーの一員として、臨床現場の多重課題の優先度を考えながら時間内に業務を実施するなどの実践能力を身につけることは容易ではなく、新人教育にとどまらず、2年目という移行期にある看護師の教育プログラムの重要性が認識されている。このような背景のもと、本研究が「2年目看護師のチームにおける看護実践の様相」に着目し、当事者の視点から明らかにした点は重要であり、意義があると評価された。

本研究は質的記述的研究デザインにより、関東圏内にある地域の中核的な2病院に勤務する2年目看護師7名にインタビューによってデータ収集が行われた。分析は、研究参加者の体験の様相を横断的に分析し、3つのテーマと8つのサブテーマが明らかになった。チームという視点に焦点を当てることにより、2年目の看護実践の特徴が描き出され、2年目看護師が自分からチームへと志向が変化する様相、期待される役割に応えようともがく様相、試行錯誤を繰り返しながら先輩看護師の姿から自分なりの看護を探し始める様相が明らかになった。2年目看護師が限られた時間の中で時間管理を行い、自ら余裕の時間を創り出し、自分中心からチームメンバーの動きへと関心を広げ、また自分中心から患者を第一に考えるチームで行う看護へと価値観を変容させていく様相が記述された。このような2年目看護師の変容には、先輩看護師や後輩看護師、他の職種との関わりやリーダーや係の役割を担うなど、チームメンバーの一員として試行錯誤が関わっていた。また、2年目看護師は、試行錯誤しながら先輩の実践を通して考える自分がしたい看護を探し始める時期でもあった。

最終的な審査において、結果は、2年目看護師たちの語りによる生データを生かした丁寧な分析がなされ、状況をありありと記述していることが評価された。

とりわけ2年目看護師が、自己への関心からチームが有する患者を優先する看護実践へとパースペクティブが変容していく様相、先輩看護師や後輩看護師との相互作用の中で自身が目指す看護を模索している様相が当事者の視点から詳細に示されている点は、本研究の新規性であり、今後の2年目看護師の継続教育に貢献できる現場還元性の高い研究であると評価された。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。